

京都教育大学 FD ニュース

No. 79

2016年7月22日

京都教育大学 FD 委員会

本学におけるFD活動の一環として実施しております「授業アンケート」へのご理解とご協力を感謝申し上げます。

今回のFDニュースでは、平成27年度後期に行った2つのアンケートについて報告いたします。

1. 平成27年度後期中間アンケートの実施結果調査報告

授業中間アンケートは平成25年度後期に開始、今回で3年目となります。「授業アンケート」では、実施や集計の時期の関係で即時性がなく、授業評価の意味合いが強くなっております。一方「中間アンケート」では、授業担当者がリアルタイムで学生の要望を把握し、その授業改善に役立てること目的としています。アンケート実施をお願いしている対象科目は「授業アンケート」と同じく6名以上の受講登録がある全授業です。

平成27年度後期 中間アンケートの実施結果調査

回答期限：12月25日

回答総数 49 (アンケート対象者数 183名中)

平成27年度後期の中間アンケートに対する実施状況調査の結果を報告いたします。

問1. 独自作成のものも含め授業中間アンケートを実施した

はい 31 いいえ 18 無回答 0

問2. アンケートを実施しなかった主な理由について (原文をほぼ引用)

- ・授業の進行の都合でうっかり機会を逃しました。
- ・授業全体で判断してもらいたいと考えるから。
- ・うっかりしていたのかも知れませんが、連絡ボックスにアンケート用紙を配布いただけのものとと思っていました。でも配付されていなかったので実施しませんでした。
- ・学生がそろわなかった。(実習・欠席など)
- ・前期とほぼ同じメンバーだったので。
- ・受講生に日常から授業内容や進度について確認していることと、そもそも人数が少ないため、無記名のアンケートに意味が無いという理由による。
- ・時間を取られる割に参考にならない。一度で十分だから。

- ・毎回の授業後小レポートによりフィードバックを行っているため。また、学生の発表とそれへの解説の形をとっており、時間が限られているため。
- ・非常勤で特定の授業のみに出講していることから、貴学における授業評価やFD活動について、観点等十分に理解できていないため。特定書式の配付回収であれば行えたと思います。
- ・毎時間「振り返りシート」(Reflection Sheet)を記入させてフィードバックしながら授業を進めているため。また、アンケートを実施する時間も不足しております。
- ・後期は授業内容が盛りだくさんだったため、時間が確保できませんでした。また、授業に必要な情報をアンケートにして実施したりしたので、アンケートの重なりもあり、時期を失いました。
- ・授業中の学生の反応やレポートなどから授業改善している。学生の評価には正当なものもあるが、面白さや安易さを求める傾向も見られるため、授業末のみで十分と考えている。
- ・受講者数が少なかったため。
- ・シラバスで定めた進度よりも遅れている授業ばかりであったため。またそのうちの一つは出席者が10名以下であるため実施しなかった。
- ・いずれも演習科目であり、アンケートをする時間がとれなかった。代わりに授業中に学生の要望を聞くようにした。
- ・特に必要性を感じなかった。

アンケートを実施しなかった理由の回答を含め、大変参考になり感謝しております。中間アンケートの実施は、授業担当者の必要性で判断していただければと考えております。アンケート実施が、授業発展の一助となれば幸いです。

問3 使用した様式について

FD委員会の様式 26 独自の様式 7

独自の方法で学生の意見を汲み取っているという回答がございました。学生の意見を把握する効果的な方法があるならば、是非教員間で共有できる機会を、という熱い要望(?)にお応えすべくFD研修会を開催していければと思っております。

問4 中間でのアンケートを実施することについて

意義があった／どちらかというとき義があった 25

どちらかというとき義がなかった／意義がなかった 1

無回答 1

アンケート等を通して、学生の状況を把握する必要性を感じている方が多くおられるようです。

問5 授業中間アンケートの結果を受けて、授業方法・内容を変えた点があれば具体的にお聞かせください。

- ・前期・後期の共通課題ととらえ、授業外の時間を使って取り組むレポートや、毎回の授業の中で理解度をたずねるなどした。

- ・特に改善してほしい点などの記述がなかったため、変更はしていません。
- ・学生からの質問の時間を多く取るようにした。
- ・専門用語の説明を都度つけるようにした。
- ・回答がほぼ想定内であったので、特にありません。
- ・まだどう変えるのか悩んでいます。
- ・レジュメやこちら側の話す内容を自分なりに検討した。レジュメの内容も再度検討しなおした。
- ・授業の進め方の参考にしている。
- ・学生たちの理解度が早く、内容的にも充足していると思い、進めていましたが実際はやや進度が速いとのこと。要所にて学生たちの意見を聞くことに決めた。
- ・事例の話を増やして欲しいなど、要望のあった点を参考に変えた（事例を増やした）。
- ・使用する（資料で）漢字が難しいとの指摘があったので、なるべく読みやすい漢字を用い、難しいものにはルビを打つようにした。
- ・学生の要望を踏まえてシラバス記載内容を見直し、要望された内容を増やした。
- ・毎回の課題（宿題）の内容など。
- ・今回は学生さんから何も要望がありませんでした。
- ・スライドを読みやすくするために、後方のカーテンを閉め明かりを消すようにした。
- ・難易度を調整しました。

スムーズな授業運営のために、実施可能な範囲で学生の意見を組もうとする姿勢は、「学び続ける教員」の姿とも言えます。受講生自身が将来教員の立場になったときの手本としてくれることが期待できます。

問6 学生へのフィードバックの方法について

【フィードバックしている】 24

【特別なフィードバックはしていない】 5

- ・要望がなかったため。

【その他】 7

- ・全員の「振り返りシート」に毎回コメントを記入して返却している。
- ・Power Point を用いて。
- ・学生への説明はしていないが、私サイドでいろいろ考えることができた。（今後の授業について）
- ・レジュメを改善。
- ・授業内容の変更。

FD委員会では適宜フィードバックをお願いしております。アンケートがどのように授業改善に役に立っているかを学生に伝えていただければと思います。

問7 FD委員会様式の「中間アンケート」の設問について

【改善の余地あり】

- ・授業を必要と感じているか否か。もともと興味・関心があるか否かについて、中間アンケートで知ること

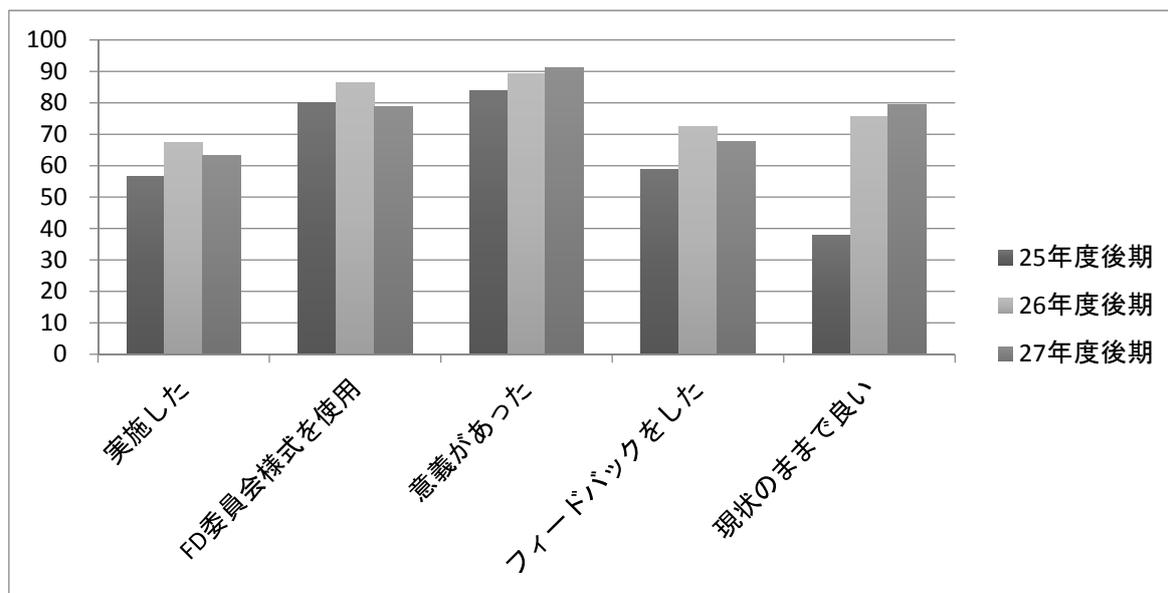
ができれば、内容の構成を変えたり、目標の再設定ができるのではと思います。

- ・回答者の出席日数など、授業に臨む姿勢が意欲的かいい加減かがある程度うかがわれる項目があると良いのではないかと思います。回答の、授業者への説得性が異なってくるように思います。

【現状のままでよい】

- ・ざっと把握するには十分と思うが、今回に限っていうと、選択式の問いの部分より、具体的に要望を書いてもらったのが役に立った。

(以上「実施結果調査の集計」より抜粋)



実施調査項目の変化（3年分）

3年前に開始した中間アンケートは、徐々に定着していると感じられます。

FD委員会で作成している様式は、期末に行われる授業アンケートからの抜粋ですが、中でも具体的に記述してもらった部分が役に立っているようです。

いただきましたご意見をもとに、中間アンケートや研修会等のFD活動をより一層意義あるものにしていこうと思います。ご協力をありがとうございました。

2. 平成 27 年度後期授業アンケート

1. 調査の概要

実施期間：2016 年 1 月 21 日（木）～2 月 3 日（水）

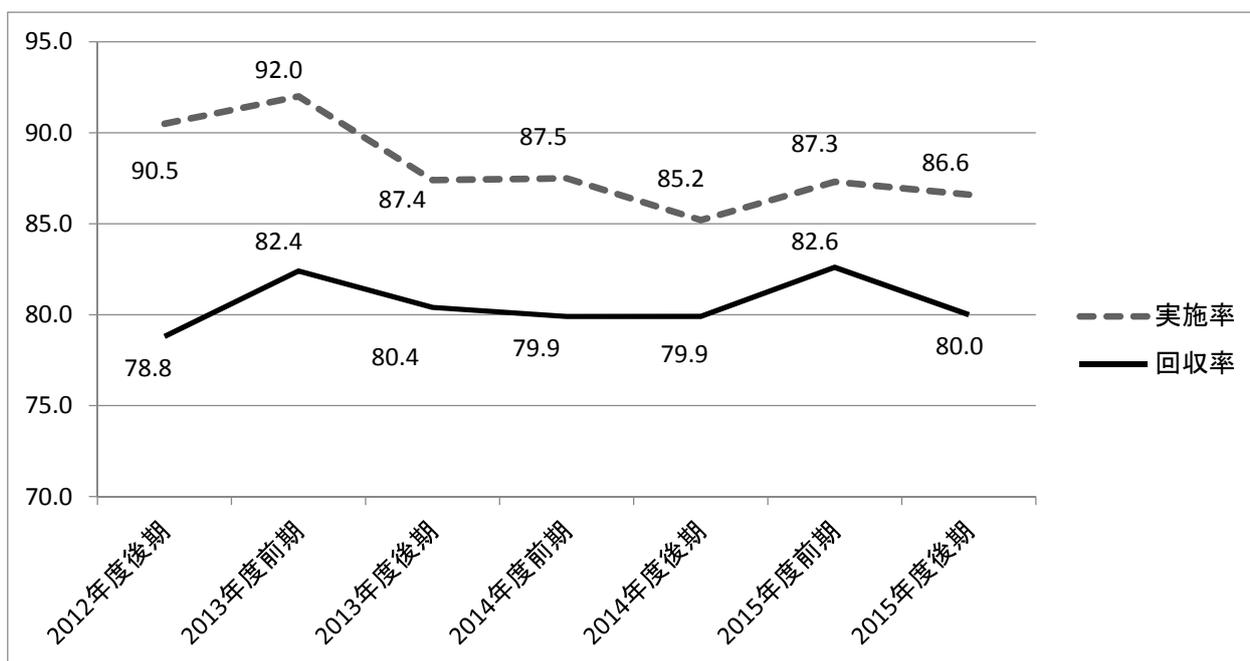
対象科目：受講登録者 6 名以上の全授業科目

対象科目数：366，実施科目数：317（実施率 86.6%）

実施科目の履修者数：12,270 名，回答者数：9,820 名（回収率 80.0%）

内訳：1 回生 3,842 名 (39.1%) 2 回生 3,255 名 (33.1%) 3 回生 1,809 名 (18.4%) 4 回生 323 名 (3.3%)

5 回生以上 111 名 (1.1%) 回答したくない 331 名 (3.4%) 無効・無回答 149 名 (1.5%)

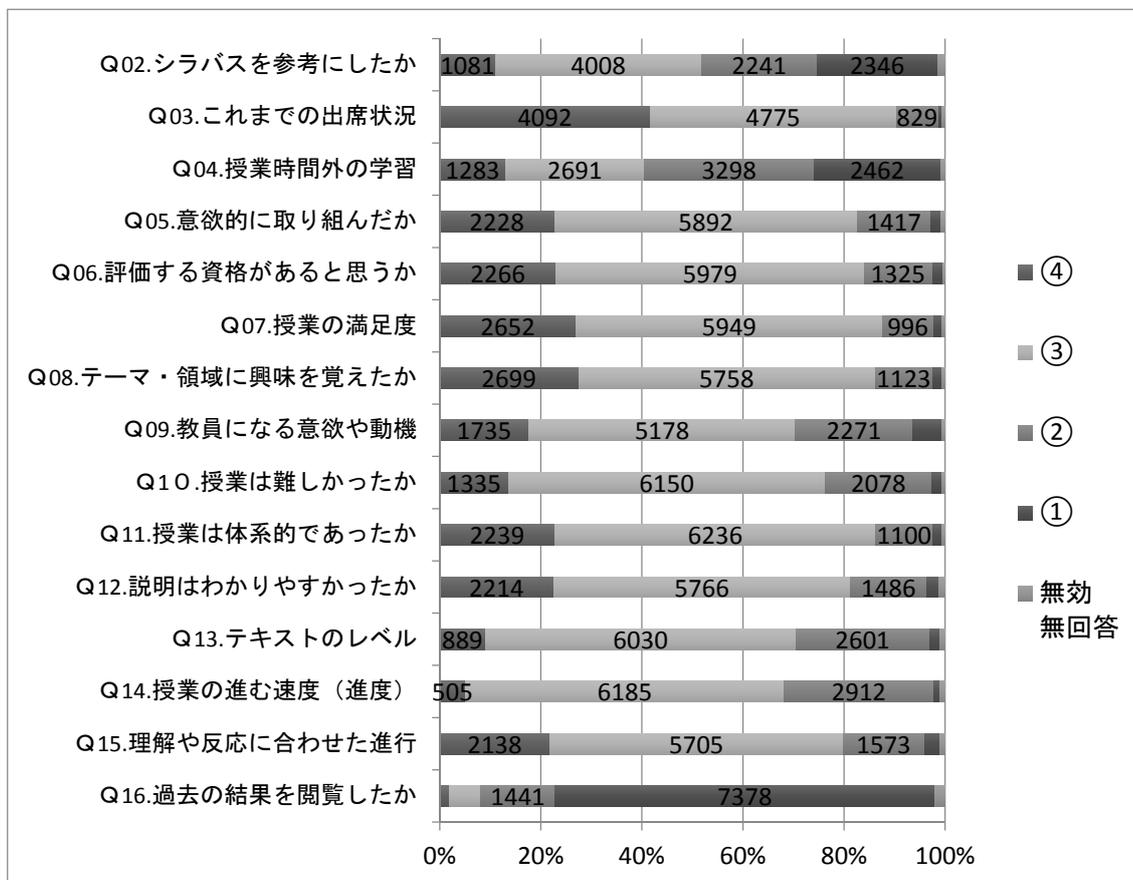


近年の調査実施率と回収率の変遷（2012 年後期から 2015 年後期）

過去 4 年間の実施率（実施科目数／対象科目数）と回収率（有効回答数／実施科目履修者数）をグラフに示します。実施率は 87% 付近で、回収率は 80% 程度で推移しています。今回未実施、及び白紙回答の授業が 49 あります。その中には、アンケートの実施時期には当該授業の全日程が終了していたため実施が不可能だったというケースもありました。現在、当該アンケートは 6 名以上の受講登録がある授業に対して行われておりますが、アンケートの精度のために考慮すべき内容が他にもあると思われます。

結果の概要

Q. 02～Q. 16 全体回答の帯グラフ (基本的な母数=9820 一部複数回答)



Q2. 5. 6. 8. 9. 11. 15. ④とても ③やや ②あまり ①ほとんどなし

Q. 3 ④全出席 ③1～2回欠席 ②3～4回欠席 ①5回以上

Q. 4 ④2時間以上 ③1～2時間 ②1時間未満 ①ほとんどなし

Q. 7 ④満足 ③やや満足 ②やや不満 ①不満

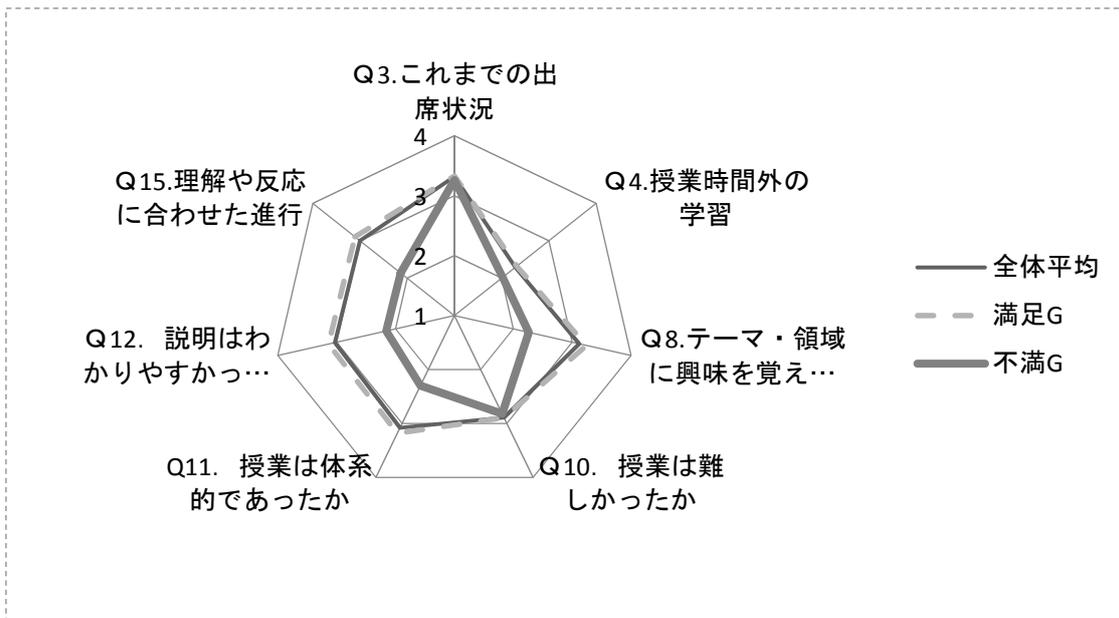
Q. 10. 13 ④難しい ③やや難しい ②やや易しい ①易しい

Q. 12 ④分かりやすい ③やや分かりやすい ②やや分かりにくい ①分かりにくい

Q. 14 ④速い ③やや速い ②やや遅い ①遅い

Q. 16 ④ほぼ全て ③閲覧している ②あまり ①全く

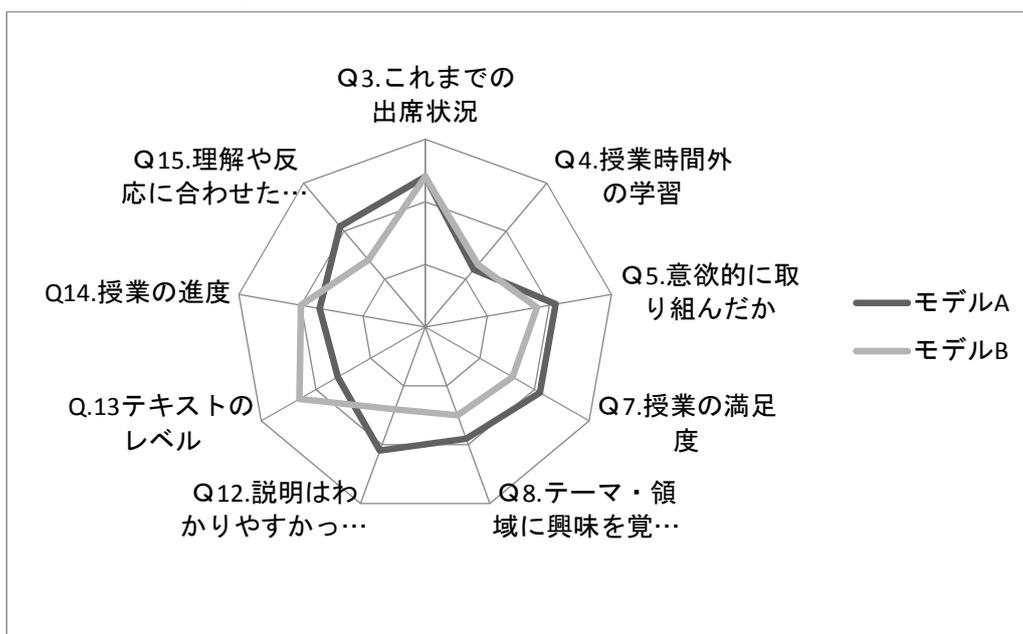
全体平均のグラフです。経年変化についても調べてみましたが、平均の数字ではほとんど変動がみられませんでした。



授業に満足した群と満足しなかった群の違い

2015 年度後期 Q7 授業の満足度についての全体と満足，不満各グループの平均値です。回答の 87.6%が満足グループのため，全体平均と満足 G が近似値となっています。

続いて，以下のグラフをご覧ください。



同一名講義のクラス別回答 (モデル)

多くの学科で行われている同名講義の複数クラス開講についてのアンケート回答モデル（親データの数値傾向を参考に作成。数値は架空）です。この結果の背景には，様々な要素（必修、習熟度、受講人数、授業内容など）が絡んでいます。A と B の格差を誤差とするかどうか難しいところです。

